

2020 年度研究会活動報告 「水環境ネットワーク研究会」

1. 研究課題

水環境ネットワーク研究会

2. 概要・目的

現在、国連のSDGsの実現に向けて、わが国では政府・企業・大学・関係団体を問わず多方面で積極的に取り組んでいる。とりわけ水環境分野の役割は大きく、先進国では水道や下水道などの公共インフラの老朽化・更新・災害への対策が喫緊の課題である。他方、途上国では水道や下水道など公共インフラの整備が未だ十分とは言えず、公衆衛生上の観点からも、治水と利水の両面からの対応が待ったなしの状況にある。こうした状況下において、本研究会では、アカデミックな観点から、水環境分野を中心として、ネットワーク産業における最適な施設規模や整備手法、さらには各種の制度改革などを多面的かつ具体的に提案することを目的としている。そして、グローバルな視点から産官学連携のコアとしての役割を果たしてきたと考えている。

3. 代表・研究会メンバー（構成）

代表者：石井晴夫（客員研究員）

研究員：石川順章（奨励研究員）

張 赫（院生研究員 本学経営学研究科博士後期課程）

藤尾美佐（経営学部教授）

中野剛治（経営学部専任講師）

蜂巢 旭（経営学部専任講師）

李 振（経営学部准教授）

山口裕之（経営学部准教授）

4. 今年度の成果報告

今年度は、以下のように、2回の研究会をWeb方式を利用して開催した。第1回研究会は、2020年7月29日（水）（14時～16時）に、石井晴夫（客員研究員）と奨励研究員の石川順章氏（作新学院大学経営学部特任講師）によって、「エッセンシャル・ファシリティーとしての水道事業の現状と課題」の研究報告が行われた。第2回研究会は、2020年12月1日（火）（16時～18時）に、草薙真一氏（兵庫県立大学国際商経学部国際商経学科教授）から「ネットワーク産業における最先端技術と制度設計」の研究報告が行われた。どちらの研究報告も時宜を得た発表であり、熱心な質疑応答が行われた。